

職場内で掲示、回覧により皆さまにご周知ください

⚠️ **ご注意ください!**

令和6年12月2日から

現行の健康保険証は発行されなくなります

※令和6年12月2日時点で有効な保険証は令和7年12月1日まで有効です



マイナンバー
カードでの受診は
始まっています!

**マイナンバーカードを
ご利用ください!**



使ってみよう!
マイナ保険証

Point!

使い方はとっても簡単! **3ステップ!**



利用方法はこちら
(YouTube動画)

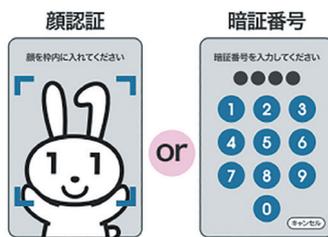
STEP 1

利用することを
受付で伝えて
カードリーダーに置く



STEP 2

顔認証または
4桁の暗証番号を入力



STEP 3

診察室等での診療・服薬・
健診情報の利用について
確認・選択



※高額療養費制度(限度額)をご利用される方は、
続けて確認・選択

「協会けんぽマイナンバー専用ダイヤル」をご利用ください

開設 令和6年9月2日(月)から

電話番号 0570-015-369

開設時間 8時30分～17時15分(土日祝日を除く)

内容 「マイナ保険証」、「資格情報のお知らせ」、「資格確認書」や「オンライン資格確認」等に関するお問い合わせ



協会けんぽマイナンバー専用ダイヤルでは
22か国語でのお問い合わせに対応しています

【対応言語】

英語、中国語、韓国語、スペイン語、タガログ語 他

協会けんぽ 2023(令和5)年度決算(見込み)のお知らせ

2023年度の決算(見込み)の概要

2023年度の決算は収入が11兆6,104億円、支出が11兆1,442億円、収支差は4,662億円で前年度から343億円の増加となりました。収入・支出の主な内訳は以下のとおりです。

収入

●保険料収入は2,577億円増加。賃金の増加が主な要因。

支出

●保険給付費は1,993億円増加。加入者1人当たり医療給付費が増加したことが主な要因。

●高齢者医療への拠出金等は1,358億円増加。団塊の世代が後期高齢者になることにより拠出金額が増加したことが主な要因。



2023年度の収支は、収入・支出ともに前年度より増加しましたが、主たる収入である「保険料収入+国庫補助等」は2,995億円増加した一方、主たる支出である「保険給付費+拠出金等」は3,351億円増加しており、**支出の方が収入よりも伸びています。そのため、収支差は実質的には前年度より縮小していることに留意が必要です。**

（その他の支出について、前年度に交付された国庫補助等の精算等による国への返還が生じなかったことにより、2023年度は前年度と比較して支出が683億円抑制されています。そのため、最終的には、収支差は、名目上、前年度より増加しています。）

※詳しくは、協会けんぽホームページをご覧ください。

2023年度決算(見込み) 医療分

(単位:億円)

収入	保険料収入	102,998	(+2,577)
	国庫補助等	12,874	(+418)
	その他	233	(+16)
	計	116,104	(+3,011)

支出	保険給付費	71,512	(+1,993)
	拠出金等	37,224	(+1,358)
	その他	2,705	(▲683)
	計	111,442	(+2,668)

単年度収支差	4,662	(+343)
--------	-------	--------

※()内は、対前年度比

※支出の「その他」は右図の「健診・保健指導経費」「協会事務費」「その他の支出」の合計

保険給付費 64.2%

協会けんぽが医療機関に支払う費用や、傷病手当金等の支払いに要する費用

高齢者医療への拠出金等 33.4%

高齢者の皆さまの医療費の一部を現役世代が負担しています。

健診・保健指導経費 1.4%

協会事務費 0.6%

その他の支出 0.4%

支出

約11.1兆円

保険料収入 88.7%

被保険者・事業主の皆さまに納めていただいている保険料

収入

約11.6兆円

国からの補助金 11.1%

その他の収入 0.2%



2023年度の決算は黒字額が増加しましたが、協会けんぽの財政は今後どのような見通しなのでしょうか？



協会けんぽの財政は、以下の理由から楽観を許さない状況です。

◆団塊の世代が後期高齢者になることにより**高齢者医療への拠出金等の短期的な急増が見込まれ、その後も中長期的に高い負担額で推移することが見込まれること。**

※高齢者医療への拠出金等 2023年度:2兆1,900億円→2025年度:2兆5,300億円

◆協会けんぽ加入者の平均年齢上昇や医療の高度化等により**保険給付費の継続的な増加が見込まれること。**

※保険給付費 2023年度:7兆1,512億円→2028年度:7兆6,600億円

こうした状況を踏まえ、協会では、将来を見据えて、加入者の健康づくりに向けた取組を進めつつ、保険財政の持続可能性という観点から、各種医療費適正化対策にも取り組んでまいります。



とっても簡単♪

受診の際は、マイナンバーカードをご利用ください。